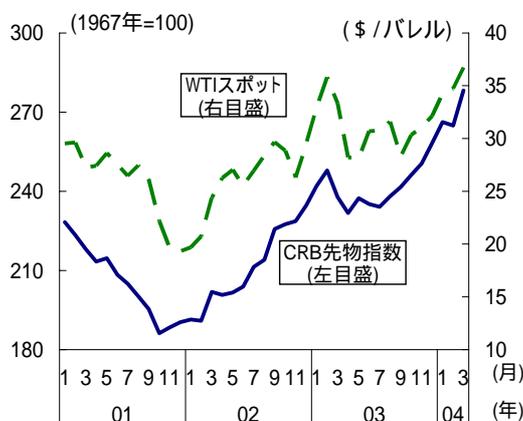
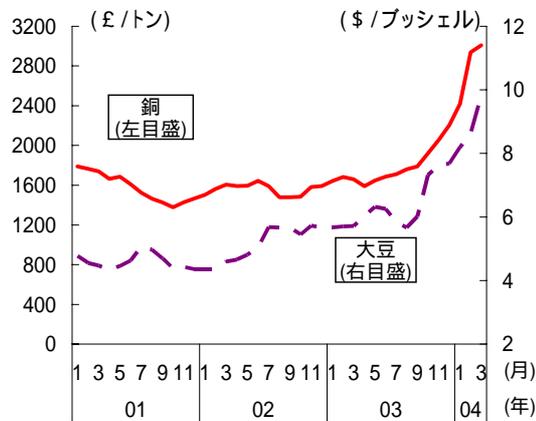


CRB先物指数・WTIスポット価格の推移



- (備考) 1. ブルームバーグ  
2. CRB先物指数の構成品目は、原油、天然ガス、暖房油、金、銀、白金、銅、小麦、トウモロコシ、大豆、綿花、砂糖、コーヒー、ココア、オレンジ果汁、生豚、生牛の17品目。

銅・大豆価格の推移



- (備考) 1. ブルームバーグ  
2. 銅：ロンドン金属取引所  
3. 大豆：シカゴ先物(期近)市場

	鋼材消費		石炭消費		アルミニウム消費		原油需要	
	単位:100万トン	シェア(%)	単位:100万トン	シェア(%)	単位:100万トン	シェア(%)	単位:100万バレル	シェア(%)
<b>中国</b>	<b>211.2</b>	<b>25.8</b>	<b>663.4</b>	<b>27.7</b>	<b>3.6</b>	<b>15.2</b>	<b>5.5</b>	<b>7.0</b>
米国	101.7	12.4	553.8	23.1	5.1	21.8	20.1	25.6
日本	72.0	8.8	105.3	4.4	2.0	8.6	5.4	6.9
世界	819.2	100.0	2,397.9	100.0	23.5	100.0	78.5	100.0

- (備考) 1. 国際鉄鋼協会、BP統計、日本アルミニウム協会、IEA  
2. 鋼材、アルミニウムの消費は見掛け消費。見掛け消費 = 生産 + 輸入 - 輸出として算出。  
3. 石炭消費は石油換算量。  
4. 鋼材・石炭：2002年実績、アルミニウム：2001年実績、原油：2003年実績。

### < 国際商品市況の動向 >

国際商品の総合的な値動きを示すCRB(コモディティー・リサーチ・ビューロー)先物指数は、2001年に入り下落していたが、2001年末から上昇に転じた。2003年に入り、イラク戦争時には原油価格の上昇から急騰後反落したが、大豆や銅等の上昇から再び上昇に転じ、2004年に入っても上昇基調で推移した。2004年3月には23年ぶりの水準に達するなど、その勢いは増している。

### < 世界景気の回復が上昇の主因 >

2003年後半以降の上昇の主な要因として、世界的な景気回復を背景として、商品需給が逼迫していることが考えられる。とりわけ、高成長を遂げる中国での需要増大の影響は大きいとみられる。中国では、原油、銅、鋼材、大豆等の各品目で輸入が拡大している。また、中国における鋼材や石炭の消費は、世界全体の1/4を超えるなど、そのインパクトは大きくなっている。